

製品開発におけるフロント・エンド・ローディング
— 開発内容の可視化と定量的リスク評価 —

株式会社ジョンクエルコンサルティング
代表取締役 落合 以臣

Keywords

開発コンセプト・可視化・深堀・定量的リスク評価

製品開発をひとつのプロジェクトと例えますと、プロジェクトの成功・失敗の要因にはさまざまな原因と背景が存在するでしょうが、そのほとんどが開発コンセプトの曖昧さと実行過程でのスキル不足からくるトラブルであると言っても過言ではないでしょう。特に、製品開発の要となります研究開発では、多くの研究者の間での通用語として用いられています「実施してみなければわからない」という呪縛から、どうしても開発スタート時点で実施すべき項目の可視化を怠ることが多く、開発仕様書も実施しながらまとめていくケースも多々あります。この結果、開発スケジュール、開発予算などを作成してもスケジュールは遅れ、開発予算はオーバーするという状況に陥ることになります。また、実行段階では開発コンセプトの不確実性からくる開発内容の見直し、担当者のスキル不足からくる設計ミスなどが起こり、二重の苦しみを味わうことになります。

こうした二つの要因を補って目的とする製品開発を実施するためには、開発テーマから機能、構成要素への落とし込みと開発における基本的なスキルを身に付けることが重要なこととなります。言い換えますと、製品開発の成功・失敗は開発コンセプトの作成段階で決まると言えます。

こうしたことを鑑みますと、製品開発当初にゴールを見据えた開発すべき内容を可視化し、その内容について定量的リスク評価を行うことが重要なことと考えられます。この *JQ International Review* が、愛読される方の背中を押すことができれば幸いです。